

開港場

会期

平成29年 10月25日(水)
～平成30年 1月28日(日)

横浜開港資料館
平成29年度
第3回企画展示

横浜の

350年の
歴史を
探る

原風景

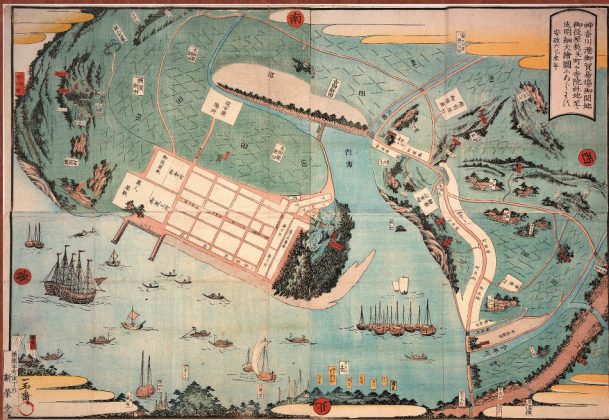
- 主 催：横浜開港資料館
- 共 催：横浜市教育局
- 後 援：朝日新聞横浜総局／神奈川新聞社
産経新聞社横浜総局／東京新聞横浜支局
毎日新聞横浜支局／読売新聞横浜支局
NHK 横浜放送局／tvk

- 休 館 日：月曜日(ただし、1月8日は開館)、12月28日～1月3日、1月9日
- 開館時間：9:30～17:00(入館は16:30まで)
11月24日(金)、1月26日(金)は展示室のみ19:00まで開館(入館は18:30まで)
- 入 館 料：一般200円、小中学生100円

横浜開港資料館

YOKOHAMA ARCHIVES OF HISTORY
旧英國総領事館

星島東横線・みなとみらい線「日本大通り」駅下車
〒221-0021 横浜市中区日本大通3 TEL. 045-201-2100
ホームページ <http://www.kaikon.city.yokohama.jp/>



安政6年(1859) 貞秀 神奈川港御貿易場御開地御役屋敷并町々寺院社地ニ至ル迄明細大絵図にあらず 当館所蔵

開港場横浜の原風景

350年の歴史を探る

安政6年(1859)、開港場・横浜が開港され、近代都市横浜の歴史が始まります。あわせて開港場と当時の主要幹線であった東海道を結び横浜道も開通します。横浜道は、開港以前、東海道の宿場であるとともに神奈川湊の所在地として地域の中心地であった神奈川宿と開港場を直結させ、さらに東海道を経て江戸へとつながります。こうした開港場と横浜道の成立によって、市役所や県庁が存在する開内から海沿いに横浜駅へと連なる現在の市域中心部の原型が形成されました。

開港場と横浜道の建設にあたっては、江戸時代を通じて進められてきた新田開発の進展が大きな要因となっています。開港場の背後にあった大岡川河口の入海は寛文7年(1667)完成の吉田新田を始めとする新田開発によって陸地化されており、帷子川沖合の海上に設定された横浜道のルートも18世紀半ば以降に開発された新田の先端部をつなぐように設定されています。

本展示では、こうした開港以前における市域中心部の様相を紹介するとともに、それが開港場設置に与えた影響を考えます。



吉田新田開発前図 吉田興産株式会社所蔵

安政6年(1859)
神奈川表横浜開港之正景
当館所蔵

展示構成

- (1) 近代都市横浜の原点
—横浜村と吉田新田—
- (2) 横浜道が通る場所
—帷子川河口部の新田開発—
- (3) 神奈川湊とその地域圏
—神奈川宿・芝生村・保土ヶ谷宿—
- (4) 横浜開港とその後の変化



関連イベント

① 展示関連講座＊展示担当者によるテーマごとの解説講座

- 第1回11月5日(日)「近代都市横浜の原点—横浜村と吉田新田—」
第2回12月9日(土)「横浜道が通る場所—帷子川河口部の新田開発—」
第3回1月13日(土)「神奈川湊とその地域圏」

時間/14:00~15:00(各回) 会場/当館講堂 受講料/1回につき200円

定員/当日先着80名 受付方法/当日13:30より会場にて受付

② 展示案内＊展示担当者による企画展示案内

第1回11月24日(金) 18:00~18:30

第2回12月23日(土) 14:00~14:30

第3回1月26日(金) 18:00~18:30

参加費/無料(入館券が必要です)

受付方法/当日開始時間に企画展示室入口集合



帷子川河口新田絵図 軽部絃一氏所蔵

横浜開港資料館

YOKOHAMA ARCHIVES OF HISTORY
旧英国総領事館

〒231-0021 横浜市中区日本大通3

TEL. 045-201-2100

ホームページ <http://www.kaikoucity.yokohama.jp/>

交通案内

- 東急東横線・みなとみらい線
「日本大通り」駅3番出口から徒歩2分
- JR「関内」駅南口・市営地下鉄「関内」駅
下車徒歩15分
- JR「桜木町」駅から市営バス「日本大通り駅東行前」・「大横橋」下車徒歩1分

案内図



次回展示予告:

連携企画展 銭湯と横浜—“ゆ”をめぐる人びと— (仮称)

平成30年1月31日(水) ~ 4月22日(日)